

契約数の7.5%がフレッツ・ISDN Lモードの普及は不透明

NTTがINSネット64という名称でISDNサービスを始めたのは、今から13年前の1988年4月である。もちろん、そのころのインターネットは一般的なものではなかった。インターネットの普及とともに、当然のごとくINSネットの契約回線数も増加し、1995年ごろからはその伸びが急激なものとなった。NTTもインターネットにはINSネット64を、という宣伝を始め、インターネットとINSネットをペアで考える人もいたぐらいだ。

1995年の夏に始まったテレホーダイのサービスが翌年の2月にINSネットでも利用できるようになると、利用頻度が高く毎月ある程度の請求額があった人の多くは、テレホーダイを利用するようになった。しかし利用者の生活は、その対象時間である午後11時以降の深夜・早朝時間帯の、いわゆるテレホーダイタイムと呼ばれた時間帯にシフトすることになり、「インターネットで寝不足」などの社会現象が少なからずあった。

フレッツ・ISDNがスタート

その後i・アイプランの発表があり、そしてついにフレッツ・ISDNのサービスが始まった。フレッツ・ISDNは1999年7月に試験提供が始まり、2000年7月から本格サービスに入った。このサービスは24時間常に使っていても、請求される金額が一定額となるもので、テレホーダイの24時間バージョンとも言える。インターネットを使うために毎日午後11時まで待たなくてよくなったわけだ。

2001年5月17日付けでNTT東日本、NTT西日本から発表になった平成12年度サービス概況等の報告では、2001年3月末日の時点でそれぞれ36万のフレッツ・ISDN契約を保有しているとされ、全国で72万契約ということがわかる。同じ概況上では、INSネットの契約回線数

は全国で約1000万回線なので、およそ7.5%の利用者がフレッツ・ISDNを使っているということになる。

フレッツ・ISDNは完全なインターネットの常時接続環境ではなく、毎回ダイヤルアップをする必要がある。そのため割り当てられるIPアドレスが毎回異なるので、ウェブサーバー等を立ち上げることは困難となっている。しかし、インターネットを利用するだけと割り切るなら、定額の利用料というメリットは大きい。

ここ最近、CATVやxDSLによるインターネットが脚光を浴び、インターネット接続のプロードバンド化が叫ばれるようになってきた。INSネット64のスピードでは、これらのスピードには到底及ばないわけで、遅かれ早かれアクセスラインの乗り換え現象が見られるようになるはずだ。前ページにも記したが、INSネット64の伸び率が落ちてきていることは、この現象が起き始めていることを物語っている。

Lモードのサービス開始

もちろんCATVやxDSL、FTTHなどの回線の利用者は、INSネットの契約者数に比較するとまだまだの状態なので、INSネットの契約者が急に減少するとは思えない。プロードバンドまでは必要ないがインターネットをちょっと使ってみたいという初心者には、INSネット64はピッタリのアクセスラインであるし、さらにフレッツ・ISDNはお金の面での強い味方となり得る。

ただ、問題は価格にある。個人のインターネット利用者に常時接続の望ましい月額料金を聞いたところ、資料4-1-11のようになった。NTTの回線使用料とインターネットサービスプロバイダーへの接続料を合わせて約2000円～3000円という線を望んでいることがわかる。他の常時接続タイプの回線の利用料も下がる傾向に

あるので、ISDNとの差が少なくなってくると、ISDN回線のメリットがなくなってしまうことも考えられる。

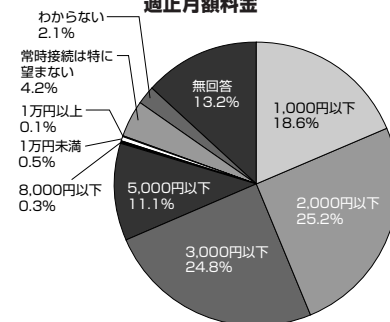
6月29日よりサービスが開始される「Lモード」は、アナログ回線やISDNで利用できるサービスで、携帯電話のiモードに似た利用形態となる。情報を得たり、メールを送ったりできるので、これまでまったくインターネットには関係なかった人も、手軽にサービスを受けられる。ISDN回線の1つの生き残りの手段と言えなくもないこのサービスは、月額300円+通話料で利用できる。

LモードはNTT東日本、西日本が提供するサービスだが、認可されるまでには紆余曲折があった。これは、両社が県内間の通信を提供するのみに限定されているからである。当初の計画ではサーバーをそれぞれ1か所に置きいてそこへアクセスさせることにしていたが、これが県を越えた通信という意見があったわけだ。

ようやくサービス開始にこぎつけたLモードだが、実際にどこまで普及するのは、まったくわからないというのが正直なところだ。ある意味で閉じられた世界であり、完全なインターネットではないわけで、事業者がどこまで本気を出して参加するのが、普及の鍵となる。今後の展開が注目される。

(井上尚司 武蔵野美術大学造形学部助教)

資料4-1-11 今後、常時接続を望む場合の適正月額料金



インターネット白書2001
©インプレス、Access Media International,2001



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp